

第2章 金銭債権の評価と貸倒引当金

第1節 金銭債権の評価

1. 金銭債権の意義…金銭の給付を目的とする債権。(例) 売上債権 (受取手形、売掛金)、未収金、貸付金、公社債などの債券。

2. 金銭債権の評価

$$\text{取得原価 (または償却原価)} - \text{貸倒引当金} = B / S \text{ 計上額}$$

3. 償却原価法

金融資産 (または金融負債) を債権額 (または債務額) と異なる金額で計上した場合において、当該差額に相当する金額を弁済期 (または償還期) にいたるまで、『每期一定の方法 (以下①または②)』で取得価額に加減する方法。当該加減額は、「受取利息」勘定 (または「支払利息」勘定) に含めて処理する。

① **利息法** (原則) …債権等の利息相当額を、債権の帳簿価額に対し一定率となるように、複利計算で各期の受取利息として貸方に計上し、債権評価の調整額は、当期の運用収益となる受取利息から「現金受取額と未収利息増減額」を引いた差額とする方法。

② **定額法** (容認) …債権等の金利調整差額を、取得日から弁済期までの期間で割って、各期一定額を債権の帳簿価額に加減する方法。

4. 金利部分がある場合の評価方法

(計算例) 最初の決算日は×2年3月31日 (貸倒実績率1.5%)。

×1年4月1日 手形売上2,000千円 (満期は2年。金利は年率3%)。

×2年4月1日 上記の手形を割引に付し、入金した。割引料140千円。

偶発債務の時価を額面の2%と見積もり保証債務を計上する。

×3年3月31日 上の手形が無事に決済された。

	金利を区別しない方法				金利を区別する方法			
	借方		貸方		借方		貸方	
売上日	受取手形	2,000	売上	2,000	受取手形	1,885	売上	1,885
決算日	繰入額	30	貸倒引当金	30	繰入額	30	貸倒引当金	30
割引日	現金	1,860	受取手形	2,000	現金	1,860	受取手形	1,942
	手形売却損	180	保証債務	40	手形売却損	122	保証債務	40
	貸倒引当金	30	繰入額	30	貸倒引当金	30	繰入額	30
決済日	保証債務	40	取崩益	40	保証債務	40	取崩益	40

1. 「繰入額」…貸倒引当金繰入額、「取崩益」…保証債務取崩益

2. 貸倒引当金繰入額 $30 = 2,000 \times 0.015$ 。保証債務 $40 = 2,000 \times 0.02$ 。

3. 金利を区別する方法の受取手形 $1,885 = 2,000 \div (1 + 0.03)^2$

4. 決算日の受取手形 (償却原価法) $57 = 1,885 \times 0.03$

5. 割引日の受取手形 (償却原価) $1,942 = 1,885 + 57$